

O. 骨, 関節

248~252 27日(火) 16:50~17:40 pm 第2会場
(異常集積)

253~257 29日(木) 10:50~11:40 pm 第3会場
(応用)

258~261 28日(水) 10:40~11:20 am 第5会場
(基礎的検討)

262~267 29日(木) 9:00~10:00 am 第5会場
(ラウンドテーブル)
(骨腫瘍)

248 ^{99m}Tc -MDP骨シンチグラフィーで両腎
に著明な高度集積を示した3例
自治医科大学放射線医学教室

中間昌博、菅原 正、宗近宏次、岸田敏博

^{99m}Tc -リン酸化合物による骨シンチグラフィー
で腎イメージの臨床的評価については諸家の報告
があり、我々の日常診療においても予測し得な
かった腎病変を指摘出来ることもまれではない。
しかし、報告の多くは腎腫瘍、腎のう胞、水腎症
などの限局性欠損あるいは集積を指摘したもので
ある。1978年Lutrinにより悪性病変で化学療法を
行った小児骨シンチグラフィーで両腎に著明な高
度集積を示した症例が報告された。我々も ^{99m}Tc -
MDP骨シンチグラフィーで同様の所見を呈した
3例を経験したので報告する。

症例1. 69才の男性。悪性リンパ腫、化学療法と
してCQ 3.2mg、VCR 1.7mg、PSL10mg、2
クール目が終了した3日後に骨シンチグラ
フィーが施行された。

症例2. 49才の男性。急性リンパ性白血病、何度
も再燃をくり返し、骨シンチグラフィー
が施行される5日前にVCR2mg、MTX10mg、
PSL30mgが投与されている。

症例3. 53才の女性。原発性肺癌、初診時既に
骨転移を認め、化学療法が行われた。
VCR1mg、BX50mg、MTX50mg、8クール目が
終了した3日後に骨シンチグラフィーが
施行された。

以上3例とも骨シンチグラフィーで両腎全体に著
明な高度集積を示した。3例とも化学療法が行わ
れた5日以内に骨シンチグラフィーが施行されて
いる。共通する制癌剤としては VCRであった。
MTXが2例に用いられた。制癌剤による腎の
toxicityがその基因として考えられた。